

令和6年度 自己評価表【目標】

鳥取県立鳥取緑風高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成	今年度の 重点目標	1 基本的生活習慣の定着を促す。 2 生徒が主体的に取り組み授業づくり、深い学びにつながる授業づくりに努める。 3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。 4 視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的生活習慣の定着	生活の自律	○多くの生徒が時間を厳守した行動ができている中、決められた時間に行動できていない生徒も若干名いる。 ○教室は日常の清掃によりきれいに保たれているが、食堂のゴミ分別状況等をみると、環境配慮行動に対する意識は、まだ十分とは言えない。 ○定期的な個人ロッカー内の点検、指導により、私物管理が身に付きつつある。 ○就寝時刻が遅い生徒が多い。(R5：午前1時以降就寝が約40%) ○むし歯保有率はこの3年間で改善傾向ではあるが、県平均と比較すると依然として高く、継続治療による保有率低下が必要。(県平均保有率12%、R5：本校保有率43%、治療率21%)	○基本的な生活習慣を意識した行動ができている。 ○環境美化に関心を持ち、身の周りの整理整頓や清掃ができている。 ○午前1時以降就寝の割合が35%以下になる。 ○むし歯保有率50%以下、治療率20%以上である。	○【緑チャレ】との運動も意識した日常の声かけや面談をとおし、基本的生活習慣の指導を行う。 ○身の周りの整理整頓、ゴミ分別の徹底を指導し、環境美化に努める。 ○ライフスタイル調査による生活実態の的確な把握と分析を行い、基本的生活習慣定着が不十分な生徒については、個別の声かけや指導を粘り強く行う。			
	個に応じた学力の向上	○【多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。】に肯定的回答した生徒の割合は82.8%、[先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にいてねいに応じてくれる。]については94.1%である。 ○【まなトレ】の取り組み内容においては多少の課題を感じつつも、互いに教えあう姿も見られ、学習意欲の醸成にも繋がっている。 ○昨年度の年間単位修得率は定時制78.6%、通信制83.9%で高い率である。 ○進路指導部が各年次、部課程と連携することで、課外指導や模試活用による指導・助言(進学希望者)、CA(キャリアアドバイザー)面談や【まなトレ】等によるコミュニケーション能力、基礎学力の向上(就職希望者)を図っている。	○【多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。】に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。 ○社会生活をより良く営むために必要な基礎学力を身につけている。 ○授業を欠席しない環境を醸成することで、単位修得率の向上をめざす。(定時制65%以上、通信制70%以上) ○基礎学力の向上により進路を意識した学習に取り組む生徒が増え、上級学校入学試験や就職試験に対応できる学力を身につけている。	○ICT機器を活用した授業実践や公開授業の促進により、生徒が主体的に取り組み、深い学びにつながる授業の工夫・充実に努める。 ○【まなトレ】や課外指導により基礎学力向上を図り、生徒が将来の生き方を見つめる一助となるように努める。 ○毎日の声かけや年間6回の生徒面談を行う。また、教職員間の情報交換を頻繁に行うことで生徒理解に努め、個別のきめ細かい指導を行う。 ○生徒進路希望を把握し、進路指導部と各年次、部課程が連携することで、個々の生徒に対する計画的な指導、支援に努める。 ○就職希望の生徒に対しては、CA面談や各種進路行事に確実に参加するように指導する。			
生徒が主体的に取り組む授業づくり 深い学びにつながる授業づくり	意欲向上と自信づくり	○特別支援教育支援員のサポートにより、生徒が安心して授業に取り組んでいる。 ○資格取得を促し、【まなトレ】を活用しての準備学習を行っているが、受験する生徒は多くない。 ○【鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。】に肯定的回答した生徒の割合は90.1%である。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動は、生徒の学ぶ意欲向上につながり、オープンキャンパスへの参加も増えた。 ○進路に関する各種講演会、講習会は生徒の進路意識を喚起する良い機会となつてはいるが、意識の継続、具体的な行動への繋がりは充分ではない。 ○【私は、将来働いてみたいと思う仕事がある。】に肯定的回答した生徒の割合は約70%である。	○各種資格試験、検定等の合格をめざし、積極的に学習に取り組んでいる。 ○【鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。】に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。 ○進路に関する各種行事や活動への積極的参加により、学習意欲や進路意識の向上を図り、自己実現や進路実現に向けた生活をしている。 ○【私は、将来働いてみたいと思う仕事がある。】に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。	○各種資格試験、検定等にチャレンジすることを勧め、適性のある生徒に対しての個別案内や支援も行う。 ○特別支援教育支援員による授業サポートや、学生教育ボランティア(緑風ソシオ)による学習指導補助等をとおして、学習意欲の向上に努める。 ○生徒の実態や課題に即した講演会や体験活動を行う。 ○進路探究の時間や面談を活用し、生徒の自己理解、職業理解を進める。 ○進路ガイダンス、進路LHR、CA面談などで自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。			
	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○担任面談やSC(スクールカウンセラー)面談等の充実により、生徒理解が深まっている。 ○各年次、部課程の情報交換やSC・SSW(スクールソーシャルワーカー)連絡会、教育相談係会の定期的開催により、職員の共通理解のもとでの個別支援対策ができている。 ○専門医相談会等をおし医療機関との連携強化を図っている。 ○【先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にいてねいに応じてくれる。】に肯定的回答した生徒の割合は94.1%である。	○前年度に比べて不登校生徒の割合が減少している。 ○教職員が情報共有し具体的な個別支援対策を行うことで、生徒が自立へと努力している。 ○【先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にいてねいに応じてくれる。】に肯定的回答する生徒の割合が80%以上である。	○担任等による個人面談や様々な場面を捉え、生徒一人ひとりととの関わりを大切にした指導に努める。 ○教育相談係会を隔週、SC・SSW連絡会を毎月行うことで、個別具体的支援策の策定、実行に努める。 ○校内支援委員会の活用や、各種外部専門機関と連携することで、組織的支援体制の充実に努める。			
個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	自立をめざす生徒指導	○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気醸成されてきている。 ○【私は、ルールやマナーを意識した行動をとるよう心がけている。】に肯定的回答した生徒の割合は90.8%である。 ○様々な進路学習や面談等をおし、進路目標が明確になる生徒が増加傾向にある。 ○【チャレンジシート】の活用は一定の役割を果たしつつも全体には及んでいない。 ○担任や進路指導部による継続的な面談は、生徒の自己理解促進やキャリア設計能力、社会性育成の一助となっている。	○お互いを思いやる心や自律性、自主性の向上により、社会で信頼される行動がとれる。 ○【私は、ルールやマナーを意識した行動をとるよう心がけている。】に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。 ○身近にある差別やいじめに気づき、その解消に向けて取り組んでいる。 ○通級指導などの個別指導により、自己理解、自己実現に繋がっている。 ○【チャレンジシート】の活用により、自分の課題を意識し改善しようと努力している。	○生徒一人ひとりととの関わりを大切にした声かけや挨拶を交わし、他者に配慮した言動などが身につくよう努める。 ○ルールやマナーの適宜指導で規範意識の向上に努め、いじめアンケートの活用等により、いじめや問題行動の未然防止、早期発見を行う。 ○生徒個々に応じた校内の支援体制(通級指導等)を確立するとともに、外部機関と連携しながら進路実現に向けた力を育成する。 ○人権教育LHR・人権学習講演会等の充実により、人権意識の向上に努める。 ○【チャレンジシート】の活用充実により、スモールチャレンジの推進に努める。			
	体験活動の活用	○TEASⅡ(鳥取県版環境管理システム)の環境改善目標は概ね達成できている。 ○生徒会執行部を中心として、各種行事の企画・運営ができている。 ○定通総体、県生連大会では、複数の部で優勝や入賞を果たし、全国大会に出場した。 ○アルバイトやインターンシップなどの経験を通し、多くの生徒が自信を付けたり、自己の課題を認識するなど成果を得ている。	○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・SDGsに関する意識が高まっている。 ○校内外の各種活動に生徒が積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの経験が進路選択の一助となり、コミュニケーション能力、自己肯定感が高まる生徒が増えている。 ○卒業までにアルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組んだ生徒の割合が80%以上である。	○具体的な環境美化活動等に繋げる、TEASⅡの適切な運用を行う。 ○各種委員会や学校行事、【緑チャレ】において、生徒会執行部を中心とした生徒の主体的な活動となるように支援する。 ○担任や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、インターンシップを原則2年次終了までに体験するよう推進する。また、アルバイトについては学校生活が第一という考えのもと、本人や家庭との協議のうえ、事業所紹介等を行っていく。			
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	集団への適応力の育成	○個別面談や各種研修修結果を踏まえ、UD(ユニバーサルデザイン)の視点で学習環境を整え、誰もがわかりやすい授業の展開に努めている。 ○SC面談やSSWとの連携等により、生徒状況の把握に努めている。 ○【鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。】に肯定的回答した生徒の割合は92.1%である。 ○生徒課題等に対し、保護者と関係者が連携を密にすることで、組織的対応ができている。	○hyper-QUの結果において、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。 ○【鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。】に肯定的回答する生徒の割合が80%以上である。	○【緑風ハートフル】等の活動をおとして他者との関わり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とSC、SSWとの協力体制の強化により、生徒の人間関係づくりを支援する。 ○様々な課題を抱える生徒に対し、適切な関わりを粘り強く行う。			
	業務改善の取組	○時間外業務時間月45時間以上の者はいない。 ○会議は1時間以内に終わるよう取り組んでいる。 ○学校行事等により長時間勤務となる時期がある。	○業務の削減、簡素化、見直しを行い、業務が効率的に行われる。 ○関係者間で情報共有されることで組織的対応を可能とし、年次有給休暇を取得しやすい環境となる。	○日ごろから教職員の業務内容や勤務状況を把握し、時間外業務が多くないよう声かけを行う ○会議の効率化、業務の精選を意識した行動を心がける。(事前準備等) ○長期休業中、定期考査中の年休取得の呼びかけを行う。			

【緑風ハートフル】:校内外での人間関係づくりのための体験活動 【まなトレ】:高校までの学習内容の学び直しのための教材 【緑チャレ】:緑風チャレンジ12(強化月間) 【チャレンジシート】:日常生活における小さな目標を記し実践

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)